

「国語国文学研究」第四十九号 抜刷

平成二十六年三月六日 発行

## 現代語「天使」のコロケーション小考

— 歌詞の中で「天使」はどのように振る舞うか —

塚  
本  
泰  
造

# 現代語「天使」のコロケーション小考

—— 歌詞の中で「天使」はどのように振る舞うか ——

塚本 泰造

本稿は、私たちがいま、超自然的な存在に対して、具体的にどのような動きを付けて受け入れているのかを、歌詞のコーパスを利用して明らかにし、歴史的研究を補完しようとするものです。

## 一、辞書の記述から

現代の国語辞書では、「天使」の意味を、おおよそ次の三つの柱で記すことが多いようです。

- ① 朝廷の使い。勅使。
  - ② 主にキリスト教における神の使い。
  - ③ 比喩的な用法。
- ③の用例としてよく挙げられているのが「白衣の天使」です。①は古語として扱われ、携帯型の国語辞書では省かれています。たとえば、二〇一二年十二月出版の『集英社国語辞典 第3版』では、

① (ユダヤ教・キリスト教・イスラム教などで) 天の神の使いとして人間界に遣わされ、神と人との仲介をする者。エンジェル。

② (比喩的に) 優しくいたわり深い人。「白衣の」

と記されています。

②の「天使」については、訳語「天使」としての、歴史的な研究が進んでいます(気仙(一九九二)、井科(二〇一一)、加藤(二〇一一))。聖書の日本語訳やオランダ系辞書、また戦前までの小説・新聞を対象に、その淵源と定着・受容過程が明らかにされつつあります。

一方、③の比喩的な使い方、言い換えると、日常で口にはせることは「天使」については、あまり研究が進んでいないようです。その中で加藤(二〇一一)に、日常語「天使」に二つの重要な指摘があります。

① 明治期の文学作品や小説において、聖書の「天使」の意味

で使われているものがほとんど見られず、比喩用法の方（女性や子供に対するイメージ）が先に受容されたと見られること

②『広辞林』では、第五版（一九七三）に至ってようやく比喩用法が記されているが、それは、戦前の昭和の新聞で「天使」が多用されていた時期から、三十年たったものであること<sup>1)</sup>

先行研究を補完すべき問題の一つは、日常語「天使」がいま現在どのように使われているかを、辞書の記述に求めるほかにということとです。比喩的な用法として位置づけられている日常語③は、十分検討に値する用法であるにも関わらず、国語辞書の、今を反映しているとはかぎらない記述と用例に守られているわけです<sup>2)</sup>。

たとえば、後述する「うたネット」の歌詞全文検索によると、歌詞に「天使」を含む曲は2494曲あるのですが、「白衣の天使」を含むのは4曲です<sup>3)</sup>。

松島（一九九六）は、やや誇張されたものの言い方という面はありますが、

あらゆる「辞書」類は、よく整理された歴史書なのである。辞書には「この言葉の意味は〜である」と書いてあるわけでもなく、「この言葉の意味は〜になるであろう」と書いてあるわけでもなく、「この言葉の意味は〜でなさやなり

ません」と書いてあるわけでもなく、「この言葉の意味は〜であった」と書いてある。少し丁寧に補足すると、「この言葉の意味は〜であった（しかし現在はそのとおりかどうかは保証しません）」というわけだ。したがって、辞書は現在、「正しくない」。

と指摘します。「天使」の記述は、これがあてはまるケースの一つと言つてよいでしょう。

## 二、現代語「天使」へのアプローチ

さて、本稿では、名詞「天使」に結びつけられた動詞に焦点を当てて、その現代的用法を明らかにします。

「天使」は、描かれたことはあるけれども、捕獲された事実のない、名詞扱いのことばです。この名詞が（あたかも）実在するかのように使われるとしたら、その契機としては、形容詞や副詞などと結びつくよりも、動詞と結びつきあり方の方が、ふさわしいと考えられます。「美しい天使」とするよりも「天使がいる」と表現する方が——「ある」ではないという点も含み——、その名詞が血肉化されていることの証となるわけです。また、超自然的であるがゆえに非実在性を常にまとう、といった名詞であれば、その名詞に結びつく動詞は、そう無限にヴァリエーションをもたないだろうと予想できます。城田（一

九九二)の「慣用」(慣用句ほどには固定していない程度の、ある程度自由な結びつき)、あるいは田野村(二〇一二)の「ロケーション」(何らかの事情によって、同時に使われやすい、したがってよく見聞きされる語の組み合わせ)という言語事象が、現代語「天使」にどうあてはまるのか・あてはまらないのかを考察することになります。

本稿では、「天使」の用例を歌詞に求めました。その理由は次の4点です。

- ①常識的に考えて、「天使」ということばが多く用いられている、と予想できるジャンルであること
- ②小説などと比べて少ない語数で文脈が把握できること<sup>3)</sup>
- ③「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言」(BCCW)に含まれないジャンルでありながら、現代語採集において悉皆的で増殖し続けるコーパス・サイトが存在すること。したがって、BCCWが2008年までの資料であるのに対して、それ以降の日本語が採集できること。
- ④文体的に、詩歌に比べて、話し言葉に近い要素が期待できること

歌詞のコーパス・サイトを使うことによって、必然的にヒット曲以外も含めることになりましたが、かえってその方が資料性は高まるでしょう。ここ最近のヒット曲は、特定のグループに偏る傾向が見られ、歌詞に見られる日本語調査が、数名のヒットメーカーの作詞の傾向を探ることと重なるおそれがあるから

です<sup>4)</sup>。

管見では、「天使」の有有限個の結びつきについては、中村編(一九九六)に「その語の主な用法」として、

天使の歌声 天使が現れる 天使のような心 白衣の天使とあるのが一番詳しいようです。しかし、私が歌詞を調査した範囲では「現れる」をもって代表的な用法とするのは難しい、という結論になりました。

### 三、調査結果

歌詞から用例を求めるにあたっては、「歌詞検索サービス ネット(UtaNet)」の歌詞全文(フレーズ)検索を使用しました。このサイトは、「150,000曲の歌詞検索と、どこよりも早い新曲歌詞満載」をサービス内容としているものです。難を言えば、1960年代以前の歌詞については不十分な可能性があるであろうということですが<sup>5)</sup>、いま現在の「天使」の用法の実態をつかむには、支障はないと言えるでしょう。

2013年10月4日の検索において、「天使」を歌詞に含む曲は2798曲、そのうちカバー曲を除いて、「天使」を含む曲は2494曲、「墮天使」を含む曲は89曲でした。これらの曲の作詞家は全部で1391人です<sup>6)</sup>。なお、「天使」に「エンジェル」とルビを振ってあるものは除きました。

三一、共起する動詞の採集範囲

「天使」と結びつく形態を、具体的に次の範囲にしぼります。いま、「天使」に羽がある縁で、「飛ぶ」という動詞が結びつく候補になったとします。この二つの項は、大きくは次の二形態で結びつくことになります。

I 述定 天使＋飛ぶ

II 装定 飛ぶ＋天使

Iの場合、「天使」のあとにさまざまな助詞(無助詞も含め)が付くこともあり、「飛ぶ」にも助詞・助動詞またテ形が付くこともありすが、それらは全て同じ形態として「飛ぶ」(天使飛ぶ・天使は飛ぶ・天使は飛ばない・天使は飛んでこないよ)にまとめます。また「天使」＋「のよう」＋「飛ぶ」も動作主「天使」の動きを表すので、これも「飛ぶ」に含めます。さらに倒置型の希求や命令文も含めます(飛んできて 天使よ)。IIの場合も同様に「天使」にかかる「飛ぶ」に、助動詞・テ形が付いても同じ「飛ぶ」にまとめます(飛ぶ天使・飛ばない天使・飛んできた天使)。

I・IIともに、二つの項の間に、別の項が差し込まれることがあります(天使＋いま＋清らかに＋飛ぶ／飛ぶ＋美しい＋私の＋天使)。これらも動作主を「天使」とし(I)、また「天使」にかかる(II)と判断できるので「飛ぶ」にまとめます。ただし、後に続く別の項が「動詞」の場合は、続く動詞の分だけ抽出します。

天使＋飛ぶ＋舞い＋歌う ↓「飛ぶ」「舞う」「歌う」  
飛ぶ＋舞い＋歌う＋天使 ↓「飛ぶ」「舞う」「歌う」

接続助詞「て」「ながら」とともに使われる場合も同様の扱いとします。

さらに、IとIIを組み合わせさせた形態は、次のように、IとIIに分けてまとめます。

飛ぶ＋舞う＋天使＋泣く

↓ I 「泣く」

II 「飛ぶ」「舞う」

さらに別の名詞に続く形態は、後の名詞の直前で区切ることにします。

天使＋飛ぶ＋舞う＋夜

↓「天使」を動作主とする「飛ぶ」「舞う」で

まとめる

こうして得た、いわば「天使」にまとわる動詞は、I述定が1290例、II装定が528例でした<sup>5)</sup>。

三一、天使は「舞い降りる」——そして「おちる」

表1に、今回検索し得た歌詞の中で、「天使」とよく結びついてきた主な動詞を示します。

I		II	
動詞	用例数	動詞	用例数
(に) なる	114	舞い降(下)りる	60
舞い降りる	70	おちる(墮・落)	26
いる	55	降りる	16
微笑む	43	する	15
降りる	41	眠る	12
笑う	33	飛ぶ	11
ささやく	27	踊る	9
する	25	生まれる	8
踊る	21	折れる	8
くれる	20	飛び立つ	8
飛ぶ	20	微笑む	8
見る	17	ささやく	7
うたう(歌・唄・謡)	16	泣く	7
言う	12		
おちる(落・墮)	12		
消える	12		
来る	11		

表1 「天使」と結びつく主な動詞

りてくる・降りてきた……)も含まれるでしょう。

この二つの動詞が「天使」に占める割合は、1818例中187例、およそ1割ですから、「天使」を歌詞に含む曲があれば、その動詞としては10に一つが「舞い降りる」「降りる」になる計算です。歌詞においては、「天使」は羽ある存在ではあっても、「飛ぶ」よりは、下方へのやや優雅な移動を好むものとして認知されているわけです。

次に若干の用例を、少しばかりジャンル横断型で挙げておきます。傍線は塚本です。

この結果から、歌詞の中では、「天使」は「舞い降りる」とよく結びつくことがわかります。述語としては「天使」+「になる」(なって・なりたい・なれない……)というコロケーションもしくは慣用が多く見られるけれども、連体格としてかかっていく形も含めれば、「天使」とは「舞い降りる」存在である」という結びつきの方がより本質的であると判断できます。また「舞い降りる」の類義語として「降りる」(降りる・降

I (舞い降りる)

あなたと歩いた 道はあてもなく 遠回りばかり それでもいつも二人 天使が舞い降りて とびきりの微笑みくれたあの日 夢見るアニバーサリー 作詞 原由子  
ほら 君にいくつもの 真白な天使が舞い降りて 笑った  
ら とっておきの この夜を祝おう

I Wish 作詞 hyde

やるの？サボんの？サボればいーじゃん！ 遭難しそうで  
まさかの号泣 ホメてますから、全力で。 少しでもこま  
でもつづく夢を見た 天使が舞い降りてきた。そしてどこ  
までもつづく空のもとで 自由になりたい

サラバ、愛しき悲しみたちよ 作詞 岩里祐穂

暗転のステージに差し込んだ一筋のライト 気まぐれな天  
使が目の前に舞い降りた まさに電光石火 恋のキラメキ  
空前絶後 胸のドキメキ 二進も三進もどうにも止まらない

星屑のセレナーデ 作詞 森山直太郎

高尾野の原野に 雪が降る 父ちゃん綺麗だなあ 1万5  
000羽の鶴の群れたちがシベリアから飛んできたよ 父  
ちゃん綺麗だなあ 雪降る空から今天使のように一勢に舞  
い降りているよ

鶴になった父ちゃん 作詞 長瀬剛

Carry on! Welcome to Dream theater. Shini on!

It's magic over night

夜明けを待つ銀の羽 突然 出逢う 奇跡 天使が舞い降  
りた瞬間 偶然 出逢う 世界 胸に踊る イメージ

そっと 飛び出す 夢の続き

DREAM THEATER 作詞 田中花乃

(降りる)

ひとり泣き濡れた夜にWhite Love 聖なる鐘の音が響く頃  
に 最果ての街並みを夢に見る 天使が空から降りて来て  
春が来る前に微笑みをくれた

白い恋人達 作詞 桑田佳祐

翼を広げて 銀座におりた 女という名の 天使たち 恋  
して傷つく そのたびに きれいになって ゆくという  
けれどお店を 変わるたび

GINZA伝説 作詞 喜多條忠

ベルベット・イースター むかえに来て まだ眠いけどド  
アをたたいて 空がとつてもひくい 天使が降りて来そう  
なほど いちばん好きな季節 いつもとちがう日曜日なの  
ベルベット・イースター 作詞 松任谷由実

だけど どうだっていいぞそんな事柄 ビスターチオの皮  
を撒き散らすのはやめてくれ 肉食の戸惑い 不思議の国  
のアリス 傷だらけの天使はもうこの街には降りない×3

Purple jelly 作詞 浅井健一

II

真っ白な銀世界 私のこの想い あなたに溶けてく 恋し  
 てるもう止まらない キセキの天使よ早く さあ、降りて  
 来て スノードロップのキセキ 作詞 有森聡美

〈舞い降りる〉

舞い降りた天使よ 白い翼広げ ここから連れ出しても  
 しもいつか その重い扉を開いて 飛び立てるのなら

Escape 作詞 MISIA

あの日は確か38℃を超えてた真夏日 Oh 白い砂浜に舞  
 い降りた天使のようにほつりと座る君を見たとき 生まれ  
 て初めての一目惚れ

Summer Love 作詞 ソナーポケット

お揃いのリングは サプライズだけじゃない 思いの証  
 Give you my heart.. 舞い降りた天使のような 君の笑顔  
 は 神様が僕にくれた 最高のプレゼント

Together forever 作詞 作田雅弥

君は泣けないから すねた自分演じてる 痛めた翼で 私  
 の窓辺に 舞い降りた天使

舞い降りた天使 作詞 城之内ミサ

〈降りる〉

この瞬間に 昨日より強く感じる恋の未来 ずっと憧れて  
 いた Everyday 君が側に Heaven everywhere  
 僕に降りて来た天使 手が届くよ 僕だけに

ANGEL 作詞 Seung Chun Ham · Wook Jin Kang ·

Sung Hwak Cho · Kanata Nakamura

君のひとみは 10000ポルト 地上に降りた 最後の  
 天使

君のひとみは10000ポルト 作詞 谷村新司

あなたに出逢い 初めて気づく 何より 大切な ぬくも  
 り 愛しい 微笑み こんな近くまで 降りた天使 いつ  
 か巡り会おうと ずっと 信じ

Bless You 作詞 TOSHI

走る僕の髪で シャツで 揺れるたくさんの白い羽根 君  
 はきつと どうしようもない 僕に降りてきた天使 付き  
 合ってもうすぐ1年で ずいぶん仲良くなったから

どうしようもない僕に天使が降りてきた

作詞 横原敬之

「舞い降りる」あるいは「降りる」なら、その先(着陸点?)



には、地上にあるいは目の前に「天使」がいることになります。そして、雪ではなく人である場合、多くは「微笑み」「笑い」「踊る」ので存在が実感できることになるのでしょうか。

一方、同じ下方への移動でありながら、「おちる」は別の「天使」の姿を映し出しています。

いやだ、いやだ。いやだ、もう嫌だ 死にたいな 便所の外に 死にたいな 天使が落ちる 死にたいな死にたいな  
もう嫌だ 天使じゃ地上じゃちっそく死 作詞 の子

Stop! Stop! 俺を止められない! 頭は Frustration  
満足できないぜ 羽のない天使のように堕ちる 頭は Frustration  
満足できないぜ 不良少年 作詞 高見沢俊彦

遠く遠く聞こえる鐘 狂気を感じていたい そうずっと  
夢に堕ちただけの 天使 汚れた時を嘆く女神達よ 少し  
疲れた顔で笑ってみせる

いらん、世界は苦しみに満ちているよ。  
作詞 NEVER MIND

動き出した衝動に もう抵抗のすべもないとあきらめて  
二人そう ここでendless dance 熱にとり憑かれた 堕

ちていく天使の様に

Don't Stop The Refrain 作詞 motsu

「落」ではなく「堕」と書き表す歌詞が少なくない点に、一定のイメージが象徴されています。

「おちる」「おちる」が同じ下方への移動を意味する動詞であるにもかかわらず、現代語「天使」に関しては、日常の使い方よりも厳しい基準で使い分けられていると考えられます。「天使」は、この世に現れるには、うっかり「落ちる」わけにはいかないうちです。

「天使」について、下方への移動に注意しなければならぬのは、結局、それが私たちの上方にいる（あるいは「ある」）ということが前提となっているからです。さらに用例を集めて、歌詞の中の「天使」の通時的な振る舞いを検討しない限り、确实にこうだと断定しにくいのですが、この「慣用」「コロケーション」は、言語外的な事実よりも、第一に言語文化的な認知が仲立ちとなって成立していると予想できます。あるいは、この前提の成立に、キリスト教の用語「天使」の、大衆における具体的な受容の姿が伺われる可能性があります。

私たちは、「天使」が落ちて「堕天使」となった文学的事実を知っています。あるいはコミックでもその経緯やモチーフにふれることができます。では、歌詞において、「堕天使」はどう振る舞っているのでしょうか。

#### 四、「墮天使」の天使性・墮天使性

「墮天使」と結びつく動詞を、「天使」と同じように抽出した結果が表2です。

この結果から二点指摘できます。

- ① 歌詞の中では、名詞「墮天使」と動詞との間には、これといった「慣用」「コロケーション」の形が見当たらないこと。もしくは未成熟の段階であること。

- ② 「天使」と結びつく動詞と重なるもの（舞い降りる・踊る・

はばたく・おちる…）が少なくないこと。

墮天使の墮天使らしさは、結びつく動詞から見ると、かえってまだ天使のなごりをとどめ、表現（発揮？）できていないようです。その例として「舞い降りる」「墮天使」の例を挙げます。

苛立ちを隠した 感情なんか 役に立たない だけど心が  
追いつけない 反逆のシナリオに 舞い降りた 墮天使  
なぜ君は 光の外にいるのか

Unlimited Sky 作詞 Tommy heavenly6

I		II	
動詞	用例数	動詞	用例数
放つ	3	おちる (落・墮)	4
踊る	2	誘う	2
掛ける	2	つける	2
(に) なる	2	舞い降りる	2
笑う	2	笑う	2
遊ぶ	1	唄う	1
いる	1	折れる	1
唄う	1	さまよう	1
描く	1	管める	1
おちる (落)	1	似る	1
賭ける	1	待つ	1
(毘に) かける	1	群がる	1
重ねる	1	持つ	1
かじる	1	瘦せる	1
奏でる	1		
誘う	1		
抱く	1		
突き刺す	1		
突っ走る	1		
飛ぶ	1		
取る	1		
ウィンクする	1		
選ぶ	1		
握る	1		
化ける	1		
伸ばす	1		
はばたく	1		
広げる	1		
触れる	1		
見守る	1		
むさぼる	1		

表2 「墮天使」と結びつく動詞一覧

柔肌に頬寄せて愛の言葉囁いて 時間(とき)を巻き戻せ  
たら 何も言わず抱きしめて 舞い降りた墮天使の群れ  
今宵街は Snow white

LONELY WOMAN 作詞 桑田佳祐

「墮天使」の行方はまだ不明瞭です。

## 五、まとめ

きわめて粗い指摘ですが、現代語「天使」の振る舞いについて、大きく二点指摘しました。

①現代語「天使」は、歌詞の中では、「舞い降りる」「降りる」存在として、慣用的に表現されることが多い。

したがって、「天使」の用法として、単純に「現れる」と記せるどうかは、他のジャンルのコーパスと比べたうえで、決定しなければなりません。

②「おちる」と「おりる」「まいおりる」には「天使」ならではの区別があること。これは、「天使」が上方の存在として、言語文化的に捉えられているからこそその言語事象ではないかと推測される。

## 【注】

(一) いま調べ得た限りでは、同じ一九七三年出版の『角川国語中辞典』

にも、「②神のような恋愛をもって他人をいたわる人のたとえ。「白衣のー」とあります。このことから国語辞書でも公式に認知されてきたと言えるのではないのでしょうか。

(2) 『日本国語大辞典』では、初版(てんし)を含む巻は一九七五年発行)から25年たつて、「地獄からの死者」という意味が追加され、当面の比喩用法においては「清らかな人」が「心が純粋な人」に変更されています。また、直喩・暗喩としての用例を数例示す辞典はありません(中村(一九九五)小内(二〇〇五)など)。

(3) 「もう大文夫・狂児・葉々子編」「ナースエンジェル音頭」「真つづくな瞳のかあちゃん」「ボクハ更新サレマシタ」の4曲。

(4) ファンタジー小説など、異世界観をもつ散文の場合、「天使」はかなり古風な振る舞いをするのが考えられます。登場人物の設定場面まで把握したうえで、用例を検討しなくてはならないといった事態があり得ます。

(5) たとえば、オリコン2012年シングルチャートを見ると、上位はジャニーズ系グループとAKB系で占められています。

(<http://www.oricon.co.jp/music/special/2012/musicrank1220/index01.html>)

(6) たとえば歌詞ポプソンの代表曲の一つ、1962年発売の「可愛いグッド・ラック・チャーム」(訳詞・三田恭次 歌手・梅木マリ)には「小っちゃな可愛い私／皆んなの天使／愛と幸せをふりまきに／やって来るのよ」という部分がありますが、「Snow White」には、この曲が含まれていません。

(7) 同じ作詞担当者がペンネームを変えて作詞している場合、別人格の立場から、という主張が込められることもあるでしょうが、ここでは同一人としてしました(例：Tommy february6「Tommy heavenly6」Tonoko Karago「川瀬智子」。また、合作の場合(例：永井真理子&平島美登里)は別人としてしました。

(8) 歌詞の場合、繰り返し(時に連呼)のフレーズがどうしても必要になります。そうしたフレーズに「天使」が使われると、いたずらに用例数が増えるということになります。これらは実質一例として処理していただきます。

#### 【参考文献】

井科佐紀子(二〇一一)「天使」という訳語 ―その複数の流入経路について―『語文研究』一一一

小内 一(二〇〇五)『日本語表現大辞典 ― 比喩と類語三万三八〇〇』講談社

加藤早苗(二〇一一)「訳語」「天使(てんし)」の受容過程 ―明治から昭和戦前を中心にして―『名古屋大学国語国文学』一〇四

気仙友恵(一九九二)『日本正教会邦訳聖書の国語学的位置づけ ―「天使」「復活」を中心に―』『玉藻』二六

城田 俊(一九九二)『ことばの縁 ―構造語彙論の試み』リベルタ出版

田野村忠温(二〇一二)『日本語のコロケーション』堀正広編『これからのコロケーション研究』ひつじ書房

中村 明(一九九五)『比喩表現辞典』角川書店

中村明編(一九九六)『文章プロのための日本語表現活用辞典』明治書院

松島恵介(一九九六)「事実をあらわす「言葉」と言葉からあらわれる「事実」」『わかりたいあなたのための心理学・入門』宝島社

実「」『わかりたいあなたのための心理学・入門』宝島社

#### 【参考サイト】

歌詞検索サービス 歌ネット <http://www.uta-net.com>

(つかもと たいぞう)／

大学院文学研究科第一四回修了／宮崎大学教育文化学部)